中林一樹の自己紹介

2025年1月21日

於：東京都・事前復興シンポジウム

中林一樹の自己紹介

nakabayashi_itsuki@nifty.com

- 酒田大火(1976)の鎮圧の24時間後に現地入りし、24ha1700棟の焼失市街地に立ち、都市防災・都市復興をテーマとする都市づくり・まちづくり研究を始める
- 東京都立大学・首都大学東京 名誉教授(工学博士)
- 明治大学 復興・危機管理研究所 客員研究員(元特任教授)
- 日本災害復興学会：特別顧問(前会長)
- 中央防災会議:「首都直下地震被害想定・対策」検討委員会委員(2006、2013)
- 国土交通省:「復興まちづくりのための事前準備ガイドライン」等委員会委員長
- 東京都:「火災予防審議会」「震災復興検討会議」「地域危険度測定」等の委員他
- 世田谷・葛飾・豊島・台東区・多摩市「都市計画審議会」会長
- 平成26年度「防災功労者・内閣総理大臣表彰」
- 令和4年度「日本都市計学会賞:石川賞」(東京都における事前復興の実践研究)
- 近著(共著):「災害復興事典(朝倉書店 2024)」「中越地震から3800日～復興しない被災地はない～(ぎょうせい 2014)」「市町村合併と防災力空洞化(ミネルヴァ書房 2013)」「地震防災の事典(朝倉書店 2000)」など、多数。

中林一樹が発出した 7 Key Concepts

① 帰宅困難者 (1982: 多摩地域地震被害想定)

- “東京らしい被害想定”をとの希望を受け、多摩地域では居住者が帰宅できずに助けあって震災直後を過ごすことになる、**「帰宅困難居住者」「帰宅困難滞留者」**を提案、被害想定。

② 復興曲線 (1987: 酒田大火復興研究論文: 都市計画学会)

- 酒田大火10年目に被災者の復興状況を質問紙調査し、被災者の生活・事業が復興時期でどう復興していったかを図化。

③ 複合災害 (1995: 阪神・淡路大震災: 雑誌掲載報告論文)

- 新淀川放水路の堤防が側方流動で3・5m沈下し、梅雨期の豪雨や台風が震災被災地を襲い、被害が拡大することを警告した。

④事前復興(1995:阪神・淡路大震災現地調査報告書)

- その時、東京都は初めて首都直下地震の被害想定で、全壊焼失40万棟余と概算。阪神の11万5千棟をはるかに上回る被害片迅速に復興まちづくりを進めるには、復興対策も事前準備・事前実践が不可避と、緊急提言した。

⑤広域巨大災害(2008:地域安全学会論文)

- “隣接3県が同時被災で各1000人以上の犠牲を出す災害”と定義。関東地震(1923)。そして東日本大震災(2011)

⑥復興感(2012~:東日本大震災の被災者復興研究)

- 復興は被災地復興と被災者復興。被災者復興は1)日常生活、2)収入確保、3)住宅再建、そして4)被災地復興だ。

⑦流域防災・複眼防災(2021:流域治水を複合災害に)

- 水害対策としての「流域治水」を、浸水する沖積地盤は揺れ・液状化しやすく、地震と水害の「複眼防災」を「流域防災」として“流域自治体連携”で。被災地復興も複眼復興で